

平成 21 年 4 月 8 日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成 18 年度 ～ 平成 21 年度

課題番号：18520585

研究課題名（和文） 古墳時代社会の変容過程の研究

研究課題名（英文） A study on the transformation process of the society during Kofun Period

研究代表者

岩永省三（IWANAGA SHOZO）

九州大学・総合研究博物館・教授

研究者番号：40150065

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：私学・考古学

キーワード：考古学

## 1. 研究計画の概要

（1）本研究の目的 古墳時代の約 350 年間は、古代国家形成に向けての長い過程の後半に当たる時期であり、さまざまな社会変動が生起した時期である。本研究は、古墳時代の西日本を主対象として、集落や墓地の構造に反映される人間集団の編成原理と階層構成、土器様式の構造や伝播現象に反映される集団間関係と情報伝達系・物資流通系の様相、祭祀に反映される集団の価値観と社会統合のあり方に着目し、それらの時間的・空間的变化を事象ごとに細かく分析する。そしてそれらの成果を総合することによって、当該期の社会全体の構造変化や集団間の政治的・文化的関係の変化相を具体的に明らかにし、国家の諸属性構築の前提が整えられた具体的過程、国家機構の形成を可能とした条件を説明することを目的とする。

弥生時代後期から古墳時代初頭にかけて、階層分化が十分に重層化しないままに地域的統合規模の拡大と信仰形態の変化が急速に進行し、5 世紀後半には親族構造の変化を前提として、首長層が階級的に結集した擬制的な族制的集団を形成して中央や地方の統治機構の中核を形成し始めるとともに、被支配者層の中には後に徴税や徴兵の単位となる親族集団が析出し始めるという見通しが得られるが、この時期に生起した諸現象が、最終的に成立した古代国家の組織や形態にいかなる影響を与えることになったのか。本研究はそのような諸変動の全体的連関の把握を目指す。そのための基礎作業を文化要素ごとに考古学的方法で行い、得られた事実関係からの仮説の構築の段階で文献史学・文化

人類学・民俗学・社会学・宗教学などの関連諸学の理論的および実証的な研究成果を積極的に援用し、最終的に異種文化要素による検証を行なう。

## 2. 研究の進捗状況

（1）18 年度には、主として集落から都市までを含む人間居住地集落関係の資料を収集した。本年度に収集した資料に基づいて、集落構造に反映された人間集団の編成原理および集団間関係の変質とその原因についての分析を開始した。古墳時代の都市存否論を検討すべく、その比較対象としての弥生時代の集落構造、古代都城の構造についても検討した。

（2）19 年度には、主として墳墓・葬送習俗関係の資料を収集した。本年度の収集資料に基づいて、墓地構造の通時的变化の背後にある人間集団の編成原理および集団間関係の変質とその原因に関する分析を進めた。特に古墳時代開始期における墳丘墓出現の背景について検討した。古墳時代の葬送習俗の通時的变化について、その古代への残存状況を確認する為に、古代の都城に見られる歴代遷宮の主要因が、死穢忌避であったのか検討し、論文として発表した。

（3）20 年度には、主として土器様式構造関係の資料を収集した。本年度に収集した資料に基づいて、土器様式構造の変動の原因を他の文化要素の変化と関連させつつ解明する作業を進め、かつて行った北部九州における弥生時代後期から古墳時代初期における土器様式構造変動の研究成果を、同地域における葬送習俗の変遷過程と関連させるととも

に、同様の検討を中国・四国・近畿地方において着手した。3. 土器関係以外にも、北部九州地域における古墳時代から古代への社会変容過程の研究の一環として、6世紀～7世紀における広域統治体制形成の動向を、統治のための政治拠点・機関・軍事施設・宗教施設等の創設過程の解明から検討し、古墳分布の変遷などからうかがえる当該地域の在地集団の統治領域の再編と併せて検討する下準備を行った。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) 各年度ごとに申請書に記載した研究実施計画をほぼ実行している。資料収集およびそれらに基づく分析と考察を順調に進め、成果が上がるたびに、研究論文として発表している。

### 4. 今後の研究の推進方策

(1) 21年度には、主として祭祀関係の資料を収集する。各地の遺跡の報告書から、本研究の目的に必要な情報を網羅的に収集する。特に研究上重要な資料については、所蔵・保管先に直接出向いて、実測図作成・写真撮影などの手段で記録化する。17～19年度に行った作業の補足を行う。各年度に行った分析作業を総合し、当該期の集落・墓地・土器様式・祭祀の様相を、相互の連関に注目しつつ総合的に研究し、当該期の社会全体の構造変化を描き出すように努め、成果を論文の形に纏めて発表する。

(2) 今後の研究で解明すべき目標

※集団の居住地に関する通説では、弥生時代をもって環濠集落が解体し、古墳時代前期に首長の居館が成立するとされているが、一般集団成員の集落と首長居館の様相の変化を古墳時代の全期間を通じて跡付けるとともに、首長居館とされる遺跡の性格について再検討することによって、居住地の構造に反映される人間集団の編成原理と階層構成の変遷について解明する。

※墓地に関しては、幾つかの地域を選定して、首長層の大型古墳のみならず階層の上下を通じた墓地の空間構成を通時的に分析し、墓地構造に反映される人間集団の編成原理と階層構成の変遷について解明する。

※土器様式の構造や伝播現象に反映される集団間関係と情報伝達系・物資流通系の様相については、古墳時代前期における土器様式の斉一化の過程と原因を弥生時代後期にまで遡って考究する。

※祭祀については、弥生時代の青銅器祭祀消滅後の集団祭祀の系譜と、新たに成立した首長層の墳墓や居館における祭祀の展開を跡付け、集団の価値観と社会統合のあり方の

変遷について解明する。

以上の要素について、それらの時間的・空間的变化を事象ごとに細かく分析し、その成果を総合することによって、当該期の社会全体の構造変化や集団間の政治的・文化的関係の変化相を具体的に明らかにし、国家の諸属性構築の前提が整えられた具体的過程、国家機構の形成を可能とした条件を解明する。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 件)

①岩永省三、老司式・鴻臚館式軒瓦出現の背景、九州大学総合研究博物館研究報告7号、11-33、2009年、査読無

②岩永省三、日本における都城制の受容と変容、九州と東アジアの考古学(単行本)に掲載、469-493、2008年、査読無

③岩永省三、内裏改作論、九州大学総合研究博物館研究報告6号、81-105、2008年、

④岩永省三、大嘗宮の付属施設、喜谷美宣先生古希記念論文集(単行本)に掲載、343-355、2006年、査読無

⑤岩永省三、国家形成の東アジアモデル、東アジア古代国家論(単行本)に掲載、87-119、2006年、査読無